

6 病院事業

(1) 事業数と職員数

平成18年度における病院の数は31病院、事業数は20事業で、いずれも前年度と同数である。ここには、平成18年度末をもって解散した公立深谷病院も含まれている。

病院を経営主体別にみると、市営が18病院、町営が8病院、一部事務組合（企業団を含む。）営が5病院となっており、経営規模別にみると、300床以上が6病院、200床以上300床未満が2病院、100床以上200床未満が9病院、50床以上100床未満が10病院、50床未満が4病院となっている。このうち、300床以上の大規模病院は、仙台市立病院、大崎市民病院、登米市立佐沼病院、気仙沼市立病院、公立刈田総合病院及びみやぎ県南中核病院で、いずれも地域の基幹病院として機能している。

病院種別では、すべて一般病院に該当しており、このうち救急指定病院は28病院となっている。

また、地方公営企業法の規定の全部を適用している事業は3事業（仙台市立病院、大崎市民病院外3分院、公立深谷病院）で、他は財務規定等のみの適用となっている。

職員数は4,984人で、前年度に比べ74人（1.5%）減少している。これは、准看護師の減少や業務の民間委託等による医療職以外の職員の減少が主な要因である。

第1表 経営主体別・経営規模別の状況

（単位：病院、床、%）

経営規模	市 営		町 営		一 組 営		計		構 成 比	
	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	
300床以上	4	1,734	0	0	2	608	6	2,342	19.4	45.7
200床以上300床未満	2	496	0	0	0	0	2	496	6.5	9.7
100床以上200床未満	5	723	2	261	2	341	9	1,325	29.0	25.9
50床以上100床未満	5	413	4	298	1	90	10	801	32.3	15.6
50床未満	2	80	2	76	0	0	4	156	12.9	3.0
計	18	3,446	8	635	5	1,039	31	5,120	100.0	100.0

（注）病院数は、年度末現在の数である。

(2) 施設の利用状況

病床数は5,120床で、前年度に比べ55床（1.1%）増加している。これは、公立黒川病院において療養病床が設置されたことが主な要因である。

患者数は、年延入院患者が1,429千人で、前年度に比べ25千人（1.7%）減少し、年延外来患者は2,547千人で、前年度に比べ73千人（2.8%）減少している。また、1病院当たりの1日平均入院患者数は126人で、前年度に比べ2人（1.6%）減少しており、1病院当たりの1日平均外来患者数は328人で、前年度に比べ11人（3.2%）減少している。

病床利用率は77.0%で、前年度に比べ0.9ポイント低下している。このうち、一般病床利用率は78.4%で、前年度に比べ0.7ポイント低下している。

第2表 病床数及び患者数の推移

年 度 項 目		14	15	16	17	18	対前年度比較	
					a	b	b - a c	(c/a) ×100(%)
年度末病床数	A	5,676	5,161	5,128	5,065	5,120	55	1.1
年延患者数 (千人)	入院	1,474	1,487	1,460	1,454	1,429	△25	△1.7
	外来	3,004	2,826	2,709	2,620	2,547	△73	△2.8
一日平均患者数 (人/1病院)	入院	129	131	129	128	126	△2	△1.6
	外来	386	365	354	339	328	△11	△3.2
病床利用率 (%)		(79.3)	(80.5)	(80.4)	(79.1)	(78.4)	(△0.7)	—
		78.2	79.4	78.9	77.9	77.0	△0.9	—
職 員 数	B	5,502	5,047	5,112	5,058	4,984	△74	△1.5
一床当たり職員数	B/A	0.87	0.97	0.98	1.00	0.97	△0.03	—

(注)病床利用率欄の()内は、一般病床分である。

(3) 経営状況

ア 損益収支の状況

病院事業の経常収益は790億92百万円、経常費用は870億42百万円となっており、この結果、経常収支比率が90.9%となり、前年度に比べ0.9ポイント低下している。

経常利益を生じた事業は20事業のうち3事業で、前年度と同数であり、その額は4億5百万円で、前年度に比べ1億44百万円(55.2%)増加している。

経常損失を生じた事業は17事業で、前年度と同数であり、その額は83億56百万円で、前年度に比べ9億3百万円(12.1%)増加している。

経常利益に特別利益を加えた総収益は816億97百万円、経常費用に特別損失を加えた総費用は875億44百万円となっており、この結果、総収支比率は93.3%となり、前年度に比べ1.2ポイント上昇している。これは、公立深谷病院の一時借入金精算等のための繰入金等、多額の特別利益が生じたことが要因である。

経常収支に特別損益を加減した純損益をみると、58億47百万円の純損失が生じており、前年度に比べ11億61百万円(16.6%)減少している。

累積欠損金を有する事業は19事業で、前年度と同数であり、その額は559億59百万円で、前年度に比べ58億22百万円(11.6%)増加している。

不良債務を有する事業は4事業で、前年度に比べ1事業減少しており、その額は42億9百万円で、前年度に比べ10億68百万円(20.2%)減少している。

第3表 病院事業の損益収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項目	事業名	14	15	16	17	18	対前年度比較			
							a	b	b - a	(c/a)
									c	×100
総収益	A	82,837	81,983	81,746	81,498	81,697	199	0.2		
経常収益	B	81,241	81,517	80,867	80,369	79,092	△1,277	△1.6		
医業収益	C	73,477	73,510	72,852	72,606	71,396	△1,210	△1.7		
うち料金収入		67,825	68,107	67,138	67,055	65,614	△1,441	△2.1		
うち受託工事収益	D	0	0	0	0	0	0	—		
特別利益		1,146	466	879	1,129	2,606	1,477	130.8		
総費用	E	88,820	88,186	87,319	88,506	87,544	△962	△1.1		
経常費用	F	87,623	87,898	86,908	87,562	87,042	△520	△0.6		
医業費用		82,868	83,490	82,521	83,028	82,683	△345	△0.4		
うち職員給与費		38,901	39,155	38,536	38,112	38,350	238	0.6		
支払利息		2,514	2,464	2,392	2,364	2,302	△62	△2.6		
特別損失		1,197	288	411	944	502	△442	△46.8		
経常損益		△6,382	△6,381	△6,041	△7,192	△7,951	△759	△10.6		
経常利益		372	306	409	261	405	144	55.2		
経常損失	G	6,754	6,687	6,450	7,453	8,356	903	12.1		
純損益		△6,432	△6,203	△5,574	△7,008	△5,847	1,161	16.6		
純利益		655	400	347	682	1,275	593	87.0		
純損失		7,087	6,603	5,921	7,689	7,122	△567	△7.4		
累積欠損金	H	38,756	43,537	49,059	50,137	55,959	5,822	11.6		
不良債務	I	4,280	4,893	5,561	5,277	4,209	△1,068	△20.2		
経常収支比率 B/F		92.7	92.7	93.0	91.8	90.9	△0.9	—		
総収支比率 A/E		93.3	93.0	93.6	92.1	93.3	1.2	—		
医業収益 に対する 割合	経常損失比率 G/(C-D)	9.2	9.1	8.9	10.3	11.7	1.4	—		
	累積欠損金比率 H/(C-D)	52.5	59.2	67.3	69.1	78.4	9.3	—		
	不良債務比率 I/(C-D)	5.8	6.7	7.6	7.3	5.9	△1.4	—		
総事業数(営業中)	J	35	31	31	20	20	0	0.0		
経常損失を生じた事業数	K	28	27	25	17	17	0	0.0		
累積欠損金を有する事業数	L	32	28	29	19	19	0	0.0		
不良債務を有する事業数	M	10	8	7	5	4	△1	△20.0		
総事業数 (営業中) に対する 割合	経常損失を生じた事業数 K/J	80.0	87.1	80.6	85.0	85.0	0.0	—		
	累積欠損金を有する事業数 L/J	91.4	90.3	93.5	95.0	95.0	0.0	—		
	不良債務を有する事業数 M/J	28.6	25.8	22.6	25.0	20.0	△5.0	—		

(注) 不良債務＝流動負債－(流動資産－翌年度へ繰り越される支出の財源充当額)

イ 資本収支の状況

病院事業の資本的支出は93億33百万円で、前年度に比べ76百万円(0.8%)増加している。このうち、建設改良費は26億87百万円で、前年度に比べ6億23百万円(18.8%)減少しており、企業債償還金は60億31百万円で、前年度に比べ1億84百万円(3.1%)増加している。

資本的支出の財源は、外部資金が他会計出資金や企業債等の75億22百万円であり、内部資金(資本的収入が資本的支出に不足する分の補てん財源)が損益勘定留保資金等の18億11百万円である。

なお、資本的支出に占める建設改良費の割合は28.8%で、前年度に比べ7.0ポイント低下しており、建設改良のための企業債償還金の割合は64.6%で、前年度に比べ1.4ポイント上昇している。

第4表 病院事業の資本収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項目		年 度					対前年度比較	
		14	15	16	17	18	b - a	(c/a)
							c	×100
資本的支出	建設改良費	13,560	3,183	6,750	3,310	2,687	△623	△18.8
	企業債償還金	4,314	5,545	5,854	5,847	6,031	184	3.1
	うち建設改良費のためのもの	4,314	5,545	5,854	5,847	6,031	184	3.1
	その他	163	260	594	100	615	515	515.0
	計	18,037	8,988	13,199	9,257	9,333	76	0.8
同 上 財 源	内部資金	1,513	2,419	2,463	2,015	1,811	△204	△10.1
	外部資金	16,524	6,569	10,736	7,242	7,522	280	3.9
	企業債	10,287	2,108	5,372	2,311	1,941	△370	△16.0
	うち建設改良費のためのもの	10,249	2,060	5,000	2,311	1,941	△370	△16.0
	他会計出資金	5,292	3,707	4,323	4,078	4,581	503	12.3
	他会計負担金	219	144	272	240	267	27	11.3
	他会計借入金	0	0	40	0	350	350	皆増
	他会計補助金	54	60	52	50	63	13	26.0
	国・県補助金	140	642	606	561	315	△246	△43.9
	繰越事業財源(△)	26	0	0	0	0	0	—
計	18,037	8,988	13,199	9,257	9,333	76	0.8	
財源不足額		0	0	0	0	0	0	—
当年度同意等債で未借入または未発行の額		0	0	0	0	0	0	—
実質財源不足額		0	0	0	0	0	0	—

(注)1 内部資金=補てん財源合計額-前年度からの繰越工事資金+固定資産売却代金

2 外部資金=資本的支出額-(内部資金+財源不足額)

ウ 料金収入の状況

料金収入（入院・外来収益）は656億14百万円で、前年度に比べ14億41百万円（2.1%）減少している。

患者1人1日当たりの診療収入は、入院収益が30,669円で、前年度に比べ117円（0.4%）増加しており、外来収益が8,552円で93円（1.1%）減少している。

職員1人1日当たりの診療収入は、医師1人当たりでは290,652円で30,814円（9.6%）減少しており、看護部門1人当たりでは54,437円で1,792円（3.2%）減少している。

第5表 料金収入の状況の推移

（単位：円、%）

項 目	年 度					対前年度比較		
	14	15	16	17 a	18 b	b - a c	(c/a) ×100	
料 金 収 入（百万円）	67,825	68,107	67,138	67,055	65,614	△1,441	△2.1	
内 入院収益（百万円）	43,654	45,565	44,716	44,408	43,833	△575	△1.3	
訳 外来収益（百万円）	24,171	22,542	22,422	22,647	21,781	△866	△3.8	
患者1人1日 当たりの診療 収 入	入 院	29,616	30,634	30,637	30,552	30,669	117	0.4
	外 来	8,046	7,977	8,276	8,645	8,552	△93	△1.1
職員1人1日 当り診療収入	医 師	357,404	344,840	339,872	321,466	290,652	△30,814	△9.6
	看 護 部 門	57,664	56,023	57,124	56,229	54,437	△1,792	△3.2

エ 他会計繰入金の状況

他会計からの繰入金（借入金を含む。）は、収益的収入（特別利益を含む。）に計上される繰入金が120億3百万円、資本的収入に計上される繰入金が52億62百万円、合わせて172億65百万円で、前年度に比べ25億41百万円（17.3%）増加している。

収益的収入に計上される他会計からの繰入金の総収益に対する割合は14.7%で、前年度に比べ2.0ポイント上昇しており、資本的収入に計上される他会計からの繰入金の資本的収入合計に対する割合は63.9%で、前年度に比べ3.6ポイント上昇している。

病床1床当たりの他会計からの繰入額は337万2千円で、前年度に比べ46万5千円（16.0%）増加している。

第6表 他会計からの繰入金の状況の推移

(単位:百万円、%)

年 度		14	15	16	17	18	対前年度比較	
							b - a	(c/a)
項 目	A	10,347	9,721	9,876	10,356	12,003	1,647	(c/a) ×100
収益的収入	A	10,347	9,721	9,876	10,356	12,003	1,647	15.9
うち	負担金	8,089	8,181	7,961	7,713	8,286	573	7.4
	補助金	1,575	1,349	1,398	1,731	1,334	△397	△22.9
	特別利益	682	191	517	912	2,383	1,471	161.3
資本的収入	B	5,566	3,911	4,687	4,368	5,262	894	20.5
うち	出資金	5,292	3,707	4,323	4,078	4,581	503	12.3
	負担金	219	144	272	240	267	27	11.3
	借入金	0	0	40	0	350	350	皆増
	補助金	54	60	52	50	63	13	26.0
計 (A+B)	C	15,913	13,632	14,563	14,724	17,265	2,541	17.3
総 収 益	D	82,837	81,982	81,746	81,498	81,697	199	0.2
資本的収入	E	16,801	6,570	10,736	7,243	8,234	991	13.7
繰入率	総収益に対する繰入率 A/D	12.5	11.9	12.1	12.7	14.7	2.0	—
	資本的収入に対する繰入率 B/E	33.1	59.5	43.7	60.3	63.9	3.6	—
一床当 り繰入金 た	収益的収入(千円)	1,823	1,884	1,926	2,045	2,344	299	14.6
	資本的収入(千円)	980	758	914	862	1,028	166	19.3
	計(千円)	2,803	2,642	2,840	2,907	3,372	465	16.0

※ 一床当たり繰入金 = $\frac{\text{他会計繰入金}}{\text{年度末病床数}}$

オ 職員給与費の状況

職員1人当たり平均給与月額、医師が148万980円、看護師が46万463円、准看護師が51万1,199円、事務職員が50万9,698円、その他の職員が46万7,159円、全職員平均では56万6,529円で、前年度に比べ107円(0.0%)増加している。

第7表 職員別給与(平均給与月額)の状況の推移

(単位:円、%)

年 度		14	15	16	17	18	対前年度比較	
							b - a	(c/a)
項 目		1,498,997	1,467,501	1,451,146	1,476,890	1,480,980	4,090	(c/a) ×100
看 護 師		469,048	458,368	465,768	461,153	460,463	△690	△0.1
准 看 護 師		526,261	517,504	516,388	519,276	511,199	△8,077	△1.6
事 務 職 員		517,310	504,892	499,281	504,509	509,698	5,189	1.0
そ の 他 職 員		473,934	472,004	473,385	484,721	467,159	△17,562	△3.6
全 職 員		572,006	562,492	563,649	566,422	566,529	107	0.0

(注)1 管理者及び臨時職員を除く。

2 平均給与月額 = (基本給 + 手当) / 年間延職員数

カ 業務量の状況

職員1人当たりの患者数は798人で、前年度に比べ7人（0.9%）減少しており、職員1人当たりの料金収入は1,316万5千円で、前年度に比べ9万2千円（0.7%）減少している。

病床100床当たりの職員数は、医師が12.9人、看護部門職員が68.2人、全職員では109.5人で、前年度に比べ0.4人（0.4%）減少している。

第8表 職員業務量の状況の推移

項目	年 度	14	15	16	17 a	18 b	対前年度比較	
							b - a c	(c/a) ×100(%)
職員1人当たり患者(人)		814	855	816	805	798	△7	△0.9
職員1人当たり料金収入(千円)		12,327	13,495	13,133	13,257	13,165	△92	△0.7
病床100 床当たり	医 師 (人)	10.7	11.4	11.2	11.9	12.9	1.0	8.4
	看 護 部 門 (人)	64.7	66.5	66.6	68.7	68.2	△0.5	△0.7
職員数	全 職 員 (人)	104.3	106.3	105.9	109.9	109.5	△0.4	△0.4

キ 材料費の状況

薬品等の医療材料費は166億27百万円で、前年度に比べ7億37百万円（4.2%）減少している。これを料金収入に対する割合で見ると25.3%で、前年度に比べ0.6ポイント低下している。

医療材料費のうち、薬品費は95億92百万円で、前年度に比べ5億33百万円（5.3%）減少しており、患者1人当たりの薬品費は2,412円で、前年度に比べ74円（3.0%）減少している。

薬品使用効率は、投薬分が121.3%、注射分が102.0%、平均で110.3%となっており、前年度に比べ4.4ポイント低下している。

第9表 料金収入に対する材料費の状況の推移

(単位:百万円、%)

項目	年 度	14	15	16	17 a	18 b	対前年度比較		
							b - a c	(c/a) ×100	
料 金 収 入		67,825	68,107	67,138	67,055	65,614	△1,441	△2.1	
医 療 材 料 費		19,662	18,550	17,797	17,364	16,627	△737	△4.2	
う ち	薬 品 費	12,672	11,048	10,396	10,125	9,592	△533	△5.3	
	そ の 他 材 料 費	6,990	7,503	7,401	7,239	7,035	△204	△2.8	
料金収入 に対する 割 合	材 料 費	29.0	27.2	26.5	25.9	25.3	△0.6	—	
	う ち	薬 品 費	18.7	16.2	15.5	15.1	14.6	△0.5	—
		そ の 他 材 料 費	10.3	11.0	11.0	10.8	10.7	△0.1	—
患者1人当たり薬品費(円)		2,830	2,561	2,494	2,486	2,412	△74	△3.0	
薬品使用 効 率	投 薬	115.6	117.1	116.4	122.3	121.3	△1.0	—	
	注 射	106.6	106.8	107.7	108.7	102.0	△6.7	—	
	平 均	111.4	111.5	111.6	114.7	110.3	△4.4	—	